

ユネスコ

2025.4
vol. 1183



宮城県気仙沼市で生まれ育った姉妹。震災当時は4歳と2歳だった。奨学金に支えられ高校に通い、それぞれ、ウェディングプランナーと学校の先生になりたいという夢を抱いている。姉は今年3月に無事、高校を卒業した。

CONTENTS

- 1 特集：東北から日本全国へ。
国内の自然災害に伴う子ども支援
- 3 活動報告
 - 2024年度第11回アクサ ユネスコ協会
減災教育プログラム
 - 未来遺産運動「プロジェクト未来遺産2024」
登録決定
 - 世界寺子屋運動
 - U-Smileプログラム
 - ユネスコスクールSDGsアシストプロジェクト
 - 寺子屋リーフレット制作プロジェクト
- 10 TOPICS
 - 維持会員企業懇談会報告
- 11 お知らせ
 - 新規加入会員のご紹介
 - 理事会・評議員会報告
 - 日本ユネスコ国内委員会関連

東日本大震災からはじまった奨学金事業。 いま、能登の子どもたちへ支援を広げています。

2011年3月11日に発生した東日本大震災。初年度より継続してきた2つの奨学金支援が15年目を迎え、今年度で最後の給付となります。元奨学生たちはいま、社会に出てそれぞれの歩みを進めています。また、最終年度の奨学生たちは、奨学金に支えられながら勉強や部活に励み、将来への夢を描いています。

当連盟は東日本大震災での経験を生かし、全国の災害発生に対応するために「災害子ども教育支援」を2021年に開始しました。現在は「令和6年能登半島地震」の被災地で奨学金などの支援を実施しています。家屋が倒壊した、あるいは仕事を失ったなど、経済的に苦しい状況になった家庭の子どもたちが、震災前と変わらずに学校生活を送れること。それが私たちの願いです。奨学生の保護者からは「家計が厳しい中でも、子どもには何かを諦めることなく、できることをしてほしい」「地震で自宅を失ったが、輪島で頑張る子どもたちのために奨学金を活用したい」などの声が次々と届いており、息の長い支援が必要だと実感しています。

今号では、東日本大震災の奨学生や、能登の子どもたちのメッセージを紹介しています(P.1-2)。

きょういくで、あしたへいく。

東日本大震災の奨学金支援が15年目を迎えました

当連盟は東日本大震災以降、被災地での教育復興支援に取り組んできました。奨学金事業「ユネスコ協会就学支援奨学金」と「MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金」はこの4月に15年目を迎え、

2025年度末で給付が終了します。多くの皆さまのご協力により、累計5463名の子どもたちの学びを支えることができました。これまでお寄せいただいたご支援に心より感謝を申し上げます。 (学校支援部)

東北の奨学生から届いたお礼のお手紙と、被災地のいまを伝える町並みの様子を紹介합니다

※学年は2025年3月現在

震災から13年が経ち、あそこ3歳だった私は16歳になりました。学校に行って授業を受けて友だちとお弁当を食べ、部活をして帰ってきます。これが私の日常です。しかし私は日常=当たり前だとは思っていません。わたしがこのように充実した生活を送れているのは誰かの支えがあってこそだと考えます。この奨学金のように。これからも私は13年前に起こった震災のこと、いまは奨学金などの支えによって日常を生きられていることを忘れずに、1日1日を大切にしたいです。
岩手県大船渡市 高校2年生より

岩手県大船渡市の中心市街地でシンボリック的存在だった「茶茶丸パーク時計塔」。2011年3月11日に地震が発生し、まもなく津波により午後3時25分で時の刻みが止まった。震災の記憶を風化させないため、震災遺構として同市内の夢海公園に保存されている



奨学金で少し余裕ができ、学校で必要になる文房具やYシャツ、靴下、お弁当のおかず、定期券などいろいろな物を買うことができました。3年間という長い期間支援していただきありがとうございます。今年から高3になり、進学するために勉強を引き続き頑張っていきたいです。
宮城県石巻市 高校3年生より



岩手県山田町は大津波に加えて大規模な火災が発生し、壊滅的な被害を受けた。現在は新しい建物が増え、公園には子どもたちの元気な声が響いている

「ユネスコ協会就学支援奨学金レポート」をぜひご覧ください

事業の活動内容に加え、現在の奨学生と、社会人となりそれぞれの道で活躍する元奨学生を取材した「就学支援奨学金レポート」を毎年制作しています。当連盟ウェブサイトでご覧いただけます。

<https://www.unesco.or.jp/activitiesitem/educationsupportitem/scholarship/28138/>



「令和6年能登半島地震」災害子ども教育支援 能登からお礼のメッセージが届いています

当連盟は東日本大震災での支援の経験を生かし、後継事業である「災害子ども教育支援」で国内の自然災害に対応する支援を行っています。本事業を通じて、令和6年能登半島地震で被災した子どもたちや学校に

対して支援を届けています。今年に入って、「学校生活で必要なものを購入できた」「被災で破損した備品を購入し活用している」などのメッセージが届きましたので、写真とともにご紹介します。（学校支援部）

奨学金支援

中学3年生の恩返し 石川県珠洲市の中学3年生・吉田 絆生さん

*2025年3月現在

珠洲市で被災し、家を失った吉田絆生さん。7カ月間の避難所生活を経て、現在は仮設住宅に家族4人で暮らしながら、大好きな野球や英語の勉強に打ち込んでいるそうです。

「被災前も後も、野球を続ける過程で沢山の人が支えてくれました。その恩返しをするために野球を続けてきたし、高校でも頑張りたいと思っています。震災があって、大変なこともありましたが、奨学金をいただくことができ、野球を続けることができ感謝しています。奨学金は、部活動で使用する野球道具や遠征費、今、力を入れている英語の資格取得の勉強のために使いたいです」と絆生さん。

一緒にお話を聞かせてくれたお母さんは、「この奨学金があって今があると思っています。本当に感謝しています。絆生を含め兄弟3人は、避難所で毎日自主的に掃除や物資配布を手伝っていました。それにより、周りの方々が顔を覚えてくれて、避難所を出た後も、子どもたちのことを応援してくれています。被災したことは確かに辛かったです、マイナスなことばかりではなく、大変な状況だからこそ成長した部

分や出会えた縁もあります。たくさんの方々からもらったものをこの先、この子たちがさらに成長する形で返していってほしいと思います」とおっしゃっていました。

珠洲の美しい自然と海が大好きだという絆生さん。進学のため春から珠洲を離れますが、「故郷を想いながら、大好きな野球と勉強を続けていきます」と話してくれました。



絆生さん(右)は能登の硬式野球チームに所属し練習に励んでいる。写真の3兄弟はみんな野球が好きで、一緒に練習することも

学校等への支援



志賀町の中学2年生より。この中学校では、助成金を活用して地震の揺れで壊れた空調機器を購入した。地震によって近隣の小学校校舎が使えなくなり、小学生も中学校でともに授業を受けている

支援いただきありがとうございました！



珠洲市の小学校では、仮設住宅建設のため学校の運動場が使用できなくなった。そのため、運動会をはじめとする屋外イベントでは市内の競技場などを使用することに。そこで必要となる音響機器を当助成で支援した

支援実績 (2025年3月末時点)

- 奨学金支援: 37名を奨学生として認定
輪島市26名、珠洲市7名、穴水町4名
- 学校等への支援: 29校(石川県内)への支援を実施
珠洲市(11校)、能登町(9校)、輪島市(6校)、志賀町(2校)、内灘町(1校)
- ユース・ボランティアへの活動助成: 2団体への支援を実施
支援の詳細は機関誌「ユネスコ」2025年1月号でも詳しく報告しています。ぜひご覧ください。
URL: https://www.unesco.or.jp/pdf/unesco/2025_01.pdf



アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム

子どもたちに 災害を生き抜く力を。

2024年1月に能登半島地震が発生し、同年8月には気象庁より初めて「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表されました。日本全国どこでも災害の脅威がある中、防災・減災に対する関心は年々高まっています。学校現場でも、災害を自分ごとと考え、子どもたちが自らの身を守る知識を学ぶことは、ますます重要になっています。

東日本大震災の経験や教訓を全国の学校防災につなげることを目的にした本プログラムは11年目を迎え、これまでのべ9万2000人以上が参加しています。

2024年度は助成校30校とユネスコ協会協働校で参加したユネスコ協会4団体のほか、奈良教育大学ユネスコクラブの学生2名が参加しました。

助成校は、教員研修会や活動報告会・減災教育フォーラムを通じて、東日本大震災や全国の災害被災地の経験・教訓や実践事例、専門家の講義から、防災・減災の知見を深めました。また、活動報告会では、助成校同士が自校の減災教育の改善に向けて、これまでの取り組みの成果と課題を共有し、学び合いました。

(学校支援部)

【プログラム基本情報】

プログラム内容：①活動資金として助成金の支給 ②教員研修会

③活動報告会・減災教育フォーラム

主催：公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟

協力：アクサ生命保険株式会社、奈良教育大学ESD・SDGsセンター

後援：文部科学省、日本ユネスコ国内委員会

プログラムコーディネーター：及川 幸彦氏（奈良教育大学ESD・SDGsセンター 副センター長）

研修会共催：気仙沼市教育委員会

研修会協力：気仙沼市立階上小学校、気仙沼市立階上中学校、宮城県多賀城高等学校

教員研修会

2024年9月19日(木)～21日(土)

開催地 宮城県仙台市、気仙沼市

内容 被災地を訪問し、経験による教訓を通じて減災教育を学ぶ

参加者 助成校30校の教員30名、ユネスコ協会4団体の代表4名(協働校) 計34名

1日目

☑ 被災地を知り、思いに触れる

研修会は仙台市で始まり、プログラムコーディネーターの及川幸彦氏が、研修会の意義、目的について講義を行いました。午後は気仙沼市へ移動し、東日本大震災で多数の犠牲者を出した杉ノ下地区の慰霊碑、隣接する気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館を視察。伝承館では語り部ガイドを務める地元の中学生が、震災を伝え継ぐ思いを語りました。

2日目

☑ 被災地の学校の減災教育を視察

先進的な減災教育を実践している気仙沼市立階上小学校、階上中学校を訪問。階上小では中学生講師による防災教室と4年生による自作の防災マップの発表を視察しました。階上中では、生徒の活動発表後、参加者と生徒とのディスカッションを行いました。後半は研修会場に移動し、宮城県多賀城高校の小野敬弘校長の講義の後、階上中の先生も交えて2日目を振り返りました。



階上小学校では4年生が防災マップの作成について発表

3日目

☑ 研修を総括し、自校にどう生かすか考える

気仙沼市教育委員会の小山淳教育長は震災からの復興下での市の教育政策について、新潟大学の上田和孝准教授は学校と地域連携におけるNPO・NGOの役割やネットワーク構築について講義を行いました。研修会の最後には、総括としてグループディスカッションを実施。参加した教員やユネスコ協会会員、学生が、研修で学んだことや今後の取り組みの改善に生かしたいことを共有しました。



グループディスカッションでは、3日間の学びを自校でどう生かすか意見を交換した

活動報告会

2025年1月31日(金)

会場 アジュール竹芝(東京都港区)
内容 講義、実践発表、グループワーク
参加者 助成校29校29名、ユネスコ協会3団体の代表3名(協働枠) 計32名

◆ 成果を共有し、地域防災・減災のリーダーを目指す

及川氏が、ESDの視点をふまえ、多様な主体の協働による防災・減災のネットワーク構築の必要性について講演しました。子どもの主体性や創造力を育む防災・減災を通して持続可能な社会を創ること、被災地の教育再生は地域の復興をけん引すること、能登の復興にも教育の力が貢献することへの期待など、重要な点が示されました。

各学校の実践発表では、1年間の成果と課題を共有しました。ユネスコ協会協働枠で参加している小学校からは、企業やユネスコ協会と連携して出前授業を実施し、児童が防災・減災を自分ごととして意識できるようになったと報告がありました。

大津山光子氏 (SEEDS Asia) は講演で三重県鳥羽市での協働事例について紹介し、学校とNPOなど地域団体の間での連携構築には、連携の目的を明確にした上で、双方のメリットを調整することが必要であると語りました。

総合討論では、9月の研修会での学びを振り返りながら、次年度の取り組みに向けての決意表明を行いました。さらに総括では、及川氏が参加者に対して、地域で防災・減災を推進するリーダーとなってほしいと期待の言葉を伝えました。



実践発表では、手製の紙芝居や動画など工夫をこらした発表を行う教員も

減災教育フォーラム

2025年2月1日(土)

会場 アジュール竹芝(東京都港区)(オンライン配信あり)
内容 講演、パネルディスカッション、事例発表
参加者 助成校29校29名、ユネスコ協会3団体の代表3名(協働枠)のほか、教育関係者や各地のユネスコ協会・クラブ、企業・団体、学生など一般参加者172名 計204名(オンライン配信の視聴者含む)

◆ 減災教育を地域に広げ、未来につなげる

まず及川氏が講演で、気候変動と防災・減災を一緒に考える視点が、社会課題を解決し持続可能な社会の構築に重要だと述べました。

続くパネルディスカッションでは、能登半島地震が発生した昨年度に助成校だった石川県珠洲市立緑丘中学校の道下忠成先生が、パネリストのひとりとして登壇。本プログラムの成果について語りました(右記)。

事例発表では、奈良教育大学ユネスコクラブの学生が、ユネスコクラブと高校、地域が協働した事例について話しました。彼らの考える大学ユネスコクラブの役割や、SNSの活用をはじめユースの視点を生かした事例は、ユースと地域・ユネスコ協会との連携に参考となる内容でした。

石川県珠洲市立緑丘中学校 道下忠成先生の発表より

同校では助成校としての取り組みが生かされ、生徒が主体的に避難所運営などの場面で活躍しました。発災後に再会した生徒からは「防災・減災について学んだから、被災時にどんな行動をとればよいか考えることができた」と聞き、生徒の役に立ったことがうれしく、減災教育の価値を改めて感じました。

生まれ育った町は景色が変わり、これから新しい町づくりが始まります。不安になることもありますが、大好きな町を守っていききたい。今後の取り組みが、必ず町や子どもたちの未来につながると信じて進んでいきたいです。

第12回「アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム」助成校募集

全国の小・中・高校を対象に助成校を募集します。本プログラムは、①助成金支給 ②教員研修会(気仙沼市)、③活動報告会・減災教育フォーラム(東京都)を通して、被災地の学校の実践事例や、ESD/SDGsを踏まえた新しい視点の防災・減災教育を学び、自校の活動の改善に活用できます。詳細・募集要項はウェブサイト公開します。

募集期間：4/14(月)～5/30(金) URL: <https://unesco.or.jp/gensai/>



未来遺産運動

「プロジェクト未来遺産2024」登録決定

4プロジェクトが新たに登録

今回で14回目となった「プロジェクト未来遺産」には全国から32件の応募が寄せられました。2024年12月16日（月）に開催した未来遺産委員会（委員長：西村幸夫／國學院大學観光まちづくり学部学部長）での

最終選考を経て、新たに4プロジェクトの登録が決定し、41都道府県、全87プロジェクトとなりました。
（文化事業部）

登録証伝達式を実施しました

「プロジェクト未来遺産2024」の4プロジェクトに対して、2月末から3月にかけて、登録証や活動応援金を贈呈する伝達式を行いました。2月27日（木）に北海道標津町、2月28日（金）に埼玉県小鹿野町、3

月23日（日）に千葉県富津市、3月29日（土）に宮城県石巻市で開催しました。今回は、埼玉県小鹿野町での伝達式の様子を報告します。

pick up!

「小鹿野歌舞伎継承プロジェクト」登録証伝達式レポート

2月28日（金）、小鹿野文化センター大会議室（埼玉県小鹿野町）で登録証伝達式を開催しました。

未来遺産委員会の齊藤裕嗣委員（独立行政法人 日本芸術文化振興会基金部プログラムディレクター）から、小鹿野歌舞伎保存会の堀口武治会長に登録証が授与されました。堀口会長は、「プロジェクト未来遺産に登録されたことは大変名誉なこと。嬉しさと身の引き締まる思い。人口減や高齢化などの難しい時代だが、230年の歴史を町民全体で伝承に努めていきたい」と新たな決意を述べました。

また、伝達式に先立ち「小鹿野町子ども郷土芸能士」*の証書授与式も開催されました。伝達式には、

子ども郷土芸能士に認定された子ども33名を含む合計60名が出席しました。

*小鹿野町主催の事業で、小鹿野町の郷土芸能の習得、継承および普及などに継続的に取り組み、優れた成果を収めている児童・生徒に対して与えられる称号。今回、小鹿野歌舞伎保存会から4名の児童・生徒が推薦され、称号が授与された。

伝達式に参加した子ども歌舞伎メンバーの声



へんみ しゅんた さん
（小3）

歌舞伎は長い台詞が面白い。
登録は嬉しかった。

（父親が保存会のメンバーで、小学校2年生から歌舞伎を始め、町内のさまざまな舞台上で活躍中）

登録されて嬉しい。歌舞伎の物語や役になりきるのが面白い。卒業しても歌舞伎を続けたいし、下の学年の子たちにも続けていってほしい。

（学校から配布されたチラシを見て、小学校5年生から参加）



ねぎし あすか さん
（小6）



「プロジェクト未来遺産2025」の募集について

2025年度のプロジェクト未来遺産は、4月中旬ごろより募集を開始する予定です。詳しくは当連盟ウェブサイトをご覧ください。
URL: <https://www.unesco.or.jp/activities/isan/heritage-for-the-future-project/apply/>



「プロジェクト未来遺産2024」登録プロジェクト紹介

(都道府県順)

標津遺跡群の魅力世界発信プロジェクト

団体名 特定非営利活動法人 自然・文化遺産保存活用ネット

エリア 北海道標津郡標津町

標津遺跡群は、根室海峡沿岸地域に位置し、標津町ポー川史跡自然公園の「伊弉仁カリカリウス遺跡」(国指定史跡)を中心とする遺跡群です。縄文時代早期からアイヌ文化期に至る1万年の生活の痕跡を伝える日本最大規模の竪穴住居群で、冷涼な気候により、約4400を超える竪穴が埋まらずに窪みとして残っています。その自然環境の保護や復元、普及啓発を進めてきた3つの町民団体をつなぐ組織として設立された自然・文化遺産保存活用ネットでは、藪に埋もれた100以上の国指定史跡の竪穴住居群を視覚的に顕在化させる活動のほか、周辺の森林保全、地元の小中学校へへの出講、遺跡ガイドツアーやカヌー体験プログラムの実施など、行政と連携しながら遺跡の保護と価値の普及を目指す取り組みを進めています。



「寺崎のはねこ踊り」保存・伝承プログラム～先人の財産を未来へ～

団体名 寺崎はねこ踊り保存会

エリア 宮城県石巻市

旧桃生町が発祥とされる「はねこ踊り」は、「寺崎のはねこ踊り」(県指定無形民俗文化財)として寺崎地区にのみ現存し、江戸時代に豊作に歓喜した人びとが神社に詣で、踊り跳ねたことが始まりとされています。寺崎地区ではさらに工夫を加え、軽快な踊りと徐々に早くなる曲調にあわせて乱舞する舞いが特徴で、田植えや稲刈りなどの所作が見られます。寺崎はねこ踊り保存会では、4年に一度開催される「寺崎八幡神社大祭典」での奉納のほか、地元小中学校や大学生、企業への指導、出張公演など後継者の育成と普及活動を進めています。また、毎年実施される「ものうふれあい祭～はねこ踊りフェスティバル in 桃生～」へ協力し、裾野を広げた伝統芸能の継承と地域振興を視野に入れた取り組みを行っています。



小鹿野歌舞伎継承プロジェクト

団体名 小鹿野歌舞伎保存会

エリア 埼玉県秩父郡小鹿野町

小鹿野歌舞伎(県指定無形民俗文化財)は、江戸時代後期に江戸歌舞伎がこの地域に伝えられたのが始まりとされ、それ以降、町内6地域に伝承されています。山車(だし)に張出を設けた「屋台歌舞伎」や、役者のみならず、三味線、衣装、鬘の手入れなどの裏方も全て自前で揃えているのが特徴です。小鹿野歌舞伎保存会では、6地域の神社祭礼に奉納する際の演技指導や道具・音楽などの協力のほか、芸能祭や国内外での上演、地元小中学校や「子ども歌舞伎」の指導、裏方養成講座の開催など、氏子以外にも歌舞伎の型・演目の正確な伝承と後継者の育成に努めています。多くの町民が歌舞伎経験者で、若手も指導者を担うといった持続的な体制を整え、「歌舞伎のまち」として民俗芸能の継承を進めています。



クモが紡ぐ! 地域のきずな～日本三大くも合戦 横綱決定戦～

団体名 富津フンチ愛好会

エリア 千葉県富津市

千葉県富津市富津地区で行われている「くも合戦」は、「フンチ」と呼ばれるネコハエトリという1cm程のクモを戦わせる遊びで、江戸時代に漁師の間で広まったと言われています。昭和40年代頃までは他地域でも行われていましたが、時代の変化とともに減少しています。富津フンチ愛好会では、繁殖期にオスがメスを取り合う習性を利用して、将棋盤ほどの大きさの土俵で戦わせ、横綱を決定する横綱決定戦の開催のほか、地元の小学校などにおけるクモの採取・飼育講座を実施し、郷土愛の醸成と後継者の育成に努めています。また、大会後はクモを生息地に戻し、クモの生態・生息地の環境に配慮しながら、地域を代表する行事としての継承を目指しています。



世界寺子屋運動

カンボジア

新たな寺子屋が完成。自立が進む寺子屋ではPCクラスも開始

カンボジアのチュブタトラウ地区に、23軒目となる寺子屋が完成しました。この地域は内戦の最前線となり、とくに教育面で大きな被害を受けました。事前調査によると、現在でも成人（15～45歳）の15%が非識字者であり、約30%の子どもたちが小学校に通っていません。また、28%の家庭が1日1ドル以下で生活している状況です。こうした背景のもと、新しい寺子屋では、小学校クラスや中学校クラス、識字クラスなどの教育支援のほか、職業訓練や小口融資を活用した経済的自立の支援を実施します。また行政などによる医療サービスなどの提供も計画され



2024年12月に完成したチュブタトラウ寺子屋



PCクラスで授業を受ける人びと

ています。地域住民にとって、学びの場であると同時に、生活向上の拠点となることが期待されます。

一方、2010年に建てられ、すでに地元住民たちによって自立的に運営されているルエル地区の寺子屋では、住民からの要望を受け、タイピングやソフトの使い方など基礎的なPCスキルの習得を目的とした教室を開講しました。ルエル寺子屋で独自に積み立ててきた基金を活用してPCを購入し、政府へ予算を申請する予定もあり、自立した運営が行われています。

ネパール

地震の被害で利用できなくなった寺子屋の再建を支援

2020年よりルンビニ州内3郡の23地域で、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた子どもたちへの教育支援を実施するとともに、これまで寺子屋を建設したことのない4州*での寺子屋建設を進めています。

2025年は、4州の一つ西部カルナリ州ジャジャルコット郡にあるパジャル寺子屋の再建を支援しています。この寺子屋では元々、2008年から既存の建物を利用して識字クラスや小口融資グループの活動などが行われていました。しかし、2023年11月に発生した地震で建物が甚大な被害を受け、利用できなくなりました。新しい寺子屋は2025年8月頃に完成する予定で、職業訓練や防災教育など、地域の人びとのための活動の拠点となります。

*ネパールは7州、77郡に分かれています。



パジャル寺子屋の建設現場

アフガニスタン

職業訓練が修了しました

2024年7月から2025年1月にかけて、都市部の貧困層を対象とした職業訓練事業を実施し、196名（受講者の92%）が最終試験に合格しました。修了証書授与式には、労働社会問題省の副大臣をはじめ多数の高官が参加したことから、政府の人材育成事業に対する期待の高さがうかがえます。修了した受講者には、ミシンなどの仕事道具を提供するとともに、訓練が生かせるようフォローアップを行います。



修了証書を手にして

\ 受講者の声 /

アジュルディンさん（エアコンと冷蔵庫修理コース）

私はレスリングのトレーナーをしながら小型家電の修理業を営んでいますが、その収入だけでは5人の家族を支えられません。大型家電修理の技術訓練の話を生徒から聞いて、これだ！と申し込みました。研修で習得した技術をその都度、店で活用したことで顧客が増え、収入が以前の3倍になりました。



U-Smileプログラム

2024年度は宇部市で官民連携の取り組みのもと、11の体験プログラムを実施

宇部市と締結した「こどもの未来共創に向けた連携と協力に関する協定」に基づき組成した官民連携のワーキングチームは、現在、困難な状況に置かれた子どもたちへの支援を行っています。子どもたちの体験格差を解消するために、2024年度は11件の体験プログラムを実施。合計235名の子どもたちが参加し、62名の大学生・社会人ボランティアに支えられて実現しました。

さまざまな人との出会いや人生を豊かにする活動を経験することで、子どもたちに自己肯定感や人の役に立っているという感覚が育まれ、将来への夢や目標を持つきっかけとなりました。宇部市こども未来部と連携することで、対象の子どもたちに確実に支援を届けるとともに、総合支援学校の子どもや外国ルーツの子どもなど、さまざまな困難を抱える子どもたちへ広く支援を届けられています。2025年度も新たなメンバー

をワーキングチームに迎え、体験プログラムの充実と、学習支援や居場所支援との連携強化を目指します。

(教育と社会の課題支援部)



三菱UFJ銀行宇部支店と宇部フロンティア大学短期大学部の協力のもと、クリスマスケーキ作りを実施

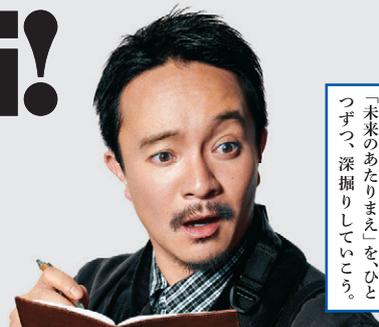
2024年度にワーキングチームが実施した体験活動

日時	イベント名	プログラム提供
5月19日	こどもワンダーピクニック (ときわ公園・動物園)	山口大学学生団体ウベカレ*
8月3日	宇部市長室見学会	宇部市*
8月3日	レノファ山口FC サッカー観戦	UBE株式会社*
8月8～9日	夏休み体験旅行：福岡バスツアー	日本ユネスコ協会連盟*
8月22日	ファーストリテイリング職場訪問&職業体験	株式会社ファーストリテイリング*
10月14日	わくわくDAYキャンプ	宇部市*
11月4日	プログラミング教室	認定NPO法人キッズドア
12月7日	わくわくクッキング クリスマスケーキを作ろう	三菱UFJ銀行宇部支店
1月18日	JAL空のお仕事見学ツアー (山口宇部空港)	日本航空株式会社山口支店*
3月16日	山口パッツファイブ バasketボール観戦	山口銀行*
3月27～29日	春休み体験旅行：沖縄	日本ユネスコ協会連盟*

*ワーキングチームのメンバー

DNPの一面!

DNPがつくる
未来の
あたりまえとは!?



常識は日々アップデートされていく。ここは、多彩な技術と視点をもつ人々が出会い、混ざり、掛け合わせりながら、まだ見たことのない新しい未来を自ら描きだす場所。その名前はDNP。ときには、分野や企業の垣根を越えて、人々の身近にあたりまえに存在する欠かせない価値を生みだし続けている。さあ、DNPがつくる次の「未来のあたりまえ」を、ひとつずつ深掘りしていこう。

未来のあたりまえをつくる。

DNP

DNPの一面



大日本印刷

ユネスコスクールSDGsアシストプロジェクト

持続可能な社会に向けた人材育成を目指し、「持続可能な開発のための教育（ESD）」を実践するユネスコスクールを対象に、活動費用の助成を行っています。これまで15年間で、のべ1293校のユネスコスクールに対して助成してきました。

2021年度からは、助成校同士の交流・連携を促進するためにオンラインで活動発表会を実施しています。昨年度は助成校78校の中から、小学校2校、中学校2校、

高校6校の計10校が発表会に参加し、2024年12月11日（水）・18日（水）の2日間に分かれて各校の特色ある取り組みを発表しました。参加校の教員や児童・生徒からは「他校の取り組みを知るよい機会になった」「たくさん質問や感想をもらえて嬉しかった」などの声が多く寄せられました。（学校支援部）

協力：株式会社三菱UFJ銀行

pick up!

助成校の活動事例

学校名

京都市立安朱あんしゅ小学校（京都府）

プロジェクト名

安朱まもり隊プロジェクト R6

持続可能な消費者になるために

持続可能な地域社会を目指して、学年ごとに地元・安朱の自然や歴史、文化、防災・減災や福祉について、地域の大学や商店街などと協力しながら学びを深めています。活動発表会に参加した5年生は、京都市にある総合地球環境学研究所や地域の方々に指導を受けながら「持続可能な消費者になる」ために何が必要かを考え、自分たちにできることについて意見交換しました。また、株式会社良品計画と共同でワークショップを行い、販売されている商品とSDGsとの関連についてまとめ、商品紹介ポスターを作成し無印良品の店舗に掲示しました。さらに、多くの方にSDGsについて知ってもらうため、17の各ゴールをテーマにした劇を制作し、体育館で他学年の児童や家族に発表しました。



ゴール14「海の豊かさを守ろう」をテーマにした劇の一幕。海に捨てられたプラスチックの袋を生きものが誤飲する様子を演じた

寺子屋リーフレット制作プロジェクト

本プロジェクトは、途上国で学びの機会を提供する世界寺子屋運動を題材とした学習活動です。子どもたちが「非識字」という世界の課題や、その背景にある社会的・文化的多様性を学び、課題解決の方法について考え、身近な地域で行動を起こすことを目指しています。

2024年度のプロジェクトには、全国から27校1800人の児童・生徒が参加しました。そして、活動の集大成として、世界寺子屋運動を支援するため、書きそんじハガキ回収を目的としたリーフレットを作成しました。このたび、各校の代表作品43点の中から、最優秀賞が決まりましたのでお知らせします。最優秀賞に選ばれた作品は、次回の「書きそんじハガキ・キャンペーン」のチラシの素案となる予定です。（学校支援部）



最優秀賞 東京都立三田高等学校 小柳綾音さんの作品

共催：一般社団法人デジタル表現研究会（D-project）

維持会員企業懇談会を開催しました

2月5日（水）、維持会員企業懇談会を開催し、33社47名の参加がありました。会場は維持会員の古河電気工業株式会社/東京都千代田区（以下、古河電工）の会議室をお借りして実施しました。以前より維持会員企業の皆さまから「会員同士が交流できる場がほしい」というご意見をいただいております、このたび初めての開催となりました。

第一部の講演会では、公益財団法人資生堂社会福祉事業財団※前理事長で日ユ協連理事の大矢和子氏によ

※現 公益財団法人 資生堂子ども財団



第一部の講演会では、大矢理事が資生堂や他社の社会貢献活動の事例を紹介

る「企業における社会貢献活動のあり方」についての講演と、古河電工取締役会長で日ユ協連戦略広報担当理事の小林敬一氏による「日ユ協連の価値を企業の社会貢献活動に活かす」と題した講演が行われました。そのほか、当連盟事務局が各種事業の活動報告を行いました。

第二部の交流会では、会員企業間同士の名刺交換や企業の社会貢献活動についての意見交換が活発に行われました。参加者からは「各社の状況や悩みなどがわかり、とても参考になった」「ユネスコ協会連盟の活動を改めて理解するよいきっかけになった」などの感想が寄せられました。

（企画広報部）



第二部の交流会で
名刺交換をする小林理事

Innovating Energy Technology

エネルギー技術を、究める。

電気、熱エネルギー技術の革新の追求により、
エネルギーを最も効率的に利用できる製品を創り出し、
安全・安心で持続可能な社会の実現に貢献します。

FE 富士電機

富士電機株式会社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2(ゲートシティ大崎イーストタワー) TEL.03-5435-7111

◆新規加入会員のご紹介◆

構成団体会員 つながるユネスコクラブ 会長 安達 仁美

オンラインを活用して広域的に会員を募る新しい形のユネスコクラブ、「つながるユネスコクラブ」を設立しました！距離を越えてつながる。人や活動、地域がつながる。社会の課題と自分たちがつながる。このクラブでは、みんなのワクワクとした気持ちを大切にしながら未来につながる活動をしていきます。

維持会員 中部電力株式会社 代表取締役社長 社長執行役員 林 欣吾

当社は、エネルギーを基軸とした事業活動を通じて、持続可能な社会の発展に貢献する取り組みを推進しています。このたび、協会連盟の活動をサポートさせていただくことで、SDGsの達成に寄与できることを嬉しく思います。

理事会・評議員会報告

■第567回理事会

1月25日(土)、ハイブリッド(会場・オンライン)により開催した。

I. 決議事項

1. 会員の入会
2. 役員損害賠償責任保険の更新

⇒ 審議の結果、原案どおり決議された。

II. 協議事項

1. 部会等からの報告・提案事項等
 - (1) 組織部会
 - (2) 財務部会
 - (3) U-Smile部会
2. ユネスコ・アジア文化センターとの合併検討について
3. 2025年度事業計画書(案)・収支予算書(案)

⇒ 協議の結果、いずれも承認された。

III. 報告事項

1. 担当理事からの報告(学校関連・災害復興支援)(戦略広報)
2. 選考委員会報告(評議員・役員改選)
3. 青年理事報告
4. 第59回評議員会にて提出された意見(議事要録)
5. 第60回評議員会議題(2/15(土)オンライン開催)

6. 2024年度 事業進捗報告
7. 代表理事の職務執行状況報告(2024年11月16日～2025年1月24日)
8. 後援・共催事業
9. 日本ユネスコ国内委員会委員(新任委員)の当連盟評議員就任

■第568回理事会

3月15日(土)、ハイブリッドにより開催した。

I. 決議事項

1. 会員の入会
2. 2025年度事業計画書(案)・収支予算書(案)・資金調達及び設備投資の見込み(案)
3. 2026年度全国大会について

⇒ 審議の結果、原案どおり決議された。

II. 協議事項

1. 部会等からの報告・提案事項等
 - (1) 組織部会
 - (2) 財務部会
 - (3) U-Smile部会
2. ユネスコ・アジア文化センターとの合併検討について

⇒ 協議の結果、いずれも承認された。

III. 報告事項

1. 担当理事からの報告(学校関連・災害復興支援)

(戦略広報)

2. 青年理事報告
3. 第60回評議員会にて提出された意見(第60回評議員会議事要録より)
4. 2024年度 事業進捗報告等
5. 代表理事の職務執行状況報告(2025年1月25日～2025年3月14日)
6. 後援・共催事業
7. 日本ユネスコ国内委員会関係報告

■第60回評議員会

2月15日(土)、オンラインにて開催した。

1. 日本ユネスコ国内委員会委員(新任地域代表委員)の当連盟評議員就任
2. 2025年度 事業計画書(案)・収支予算書(案)
3. ユネスコ・アジア文化センターとの合併検討について
4. 部会等からの報告
 - (1) 組織部会
 - (2) U-Smile部会
 - (3) 世界寺子屋運動
 - (4) 青年理事
5. 2024年度 事業進捗報告

日本ユネスコ国内委員会関連

日本ユネスコ国内委員会委員(新任地域代表委員) 就任および当連盟評議員就任のお知らせ

2024年12月1日より、以下の方々が日本ユネスコ国内委員会委員に就任し、同日付で当連盟の評議員に就任しました。

関東・甲信越	成田 和憲(渋谷ユネスコ協会副会長)
	西野 裕代(杉並ユネスコ協会副会長)
中部	大矢 彰子(名古屋ユネスコ協会理事)
近畿	若林美和子(大阪ユネスコ協会理事・事務局長、 大阪府ユネスコ連絡協議会理事・事務局長)
中国	井上 法雄(鳥取ユネスコ協会会長)
四国	井上 公子(四国中央ユネスコ協会理事)
九州	添石 幸伸(沖縄県ユネスコ協会会長)

日本ユネスコ国内委員会総会報告

3月11日(火)、第156回日本ユネスコ国内委員会総会が開催されました。会議では、最近のUNESCO関係の動きや各専門小委員会の報告、次世代ユネスコ国内委員会からの活動報告などが行われました。その後、加納雄大UNESCO日本政府代表部特命全権大使から、「戦後80年とユネスコ憲章80年：国際的協力の可能性と日本外交」をテーマに、UNESCOと日本との関わり、UNESCOの特徴と「ポスト冷戦」期における可能性、2024年の活動実績や2025年の展望、注目点など多岐にわたる報告がありました。